

(様式6-3)

研修等 報告書

令和5年10月27日

三田市議会議長

森本 政直 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	代表者	印
	議員名	
参加者氏名	井上 昭吾	
講演会等研修名	議員活動新人研修	
研修事項	・一期目に絶対注意してほしいこと ・基礎知識としての財政ポイント ・職員から見た議員の見える方 ・セミナーで一番多い質問の共有	
日 時	令和5年10月24日(火曜日)～ 令和5年10月25日(水曜日)	
場 所	リファレンス国際ビル 東京都千代田区丸の内3-1-1	
所 見 (別紙でも可)	別紙参照	
添付資料	・1期目議員のための議員活動新人研修1	

添付書類(講演会内容のパンフレット等)

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

研修所見

議員名 井上昭吾

研修名 議員活動新人研修

日時 令和5年10月25日(水) 10:00~12:45

所見

議員活動4年目となり新人研修もどうかとは考えたが、講師が「地方議員のための役所を動かす質問の仕方(学陽書房)」の著者で元廿日市市副市長のコンサルタント、川本達志氏であったので受講を決めた。予想通り、行政での実務経験に裏打ちされた実践的な内容で、意義のあるセミナーであった。

まず、地方議会の存在意義は「住民の福祉の増進」であり、権力を生む装置である国会とは根本的に違うこと、地方議員は代表機関(議会)の構成員で行政の意思決定を担う「行政の中の人」であり、たいへん重い役割を担っていること、等の確認がされた。そして、議員の力とは「知識」と「情報」と「仲間」により発揮されるとし、とにかくしっかり勉強するよう指導された。議員になっても特別な研修があるわけではなく、執行部は基本的に「新人議員にはわからない資料」を与えてくるので、勉強しないと仕事にならないこと、また、執行部には説明責任があるので、資料がわからない場合はわかる資料を提出させることも必要だと指摘された。私も議員になってからというもの勉強することがとても多く、なかなか頭に入らないことを悩んでいるが、多くの議員が同じような経験をしていることがわかり、結局は勉強する意欲を持ち続けることが極めて大切だと改めて理解した。ただ、多様性のある新しい議員を増やすためには、議会事務局などの協力を得ながら「議員研修」をさらに充実させていくことも必要だと感じる。地方行政で重要な役割を担う議員という仕事に多くの人が参加してみたいと思える環境整備に「充実した議員研修」は不可欠だと考えるからである。

次に、地方議員として最低限必要な基礎知識と地方議員が本来的にすべきことについての講義があったが、地方自治の基礎知識の学習は不可欠で、少なくとも「自治体職員研修講座初任者用(学陽書房)」には目を通しておくよう指導された。また、地方議員が本来的にすべきことは、地域の課題を行政の

力（制度、事業の創設・改善等）によって解決することであり、この場合も既存制度の学習は必須であると指摘された。そうした学習は本を読むことでもある程度できるが、より実践的な学習相手は役所内の担当係長であり、最も制度に精通している担当係長に積極的に質問して理解することを勧められた。担当係長に質問することで執行部とのコミュニケーションが生まれ、周りの職員とも関係が築きやすくなるとのことなので、実践していきたい。川本講師は議員と職員の関係を7つに分類していたが、議員として最善なのは「合理的思考タイプ」で、このタイプの議員は「行政制度を学習し自分のテーマに関しては突き詰めて質問する。不合理な態度や答弁には怒るが、筋が通っているため職員に嫌われることなく一目置かれる」とのことだった。逆に最悪なのは「長老タイプ」で「権益に敏感で公共事業系に関心が高い。利益誘導型で仲間を作ることに関心しており、首長に議員個人として影響力を持つことに腐心する」であったが、他の5つのタイプも含めてそれぞれ特徴的で、おもしろい分析だった。私は、知識が不十分で理解不足の分野がたくさんあるが、自分のテーマ（教育に関わる三田の歴史や文化）に関してはかなり勉強してきたので、そこを強みにした議員活動をしていこうと思う。

基礎知識としての予算・財政のポイントについての講義では、三田市の決算カードも使いながら、わかりやすく説明してもらえた。私が連携を進めた東京都港区の議員も参加しており、他の自治体とは全く違う港区の決算カードは基準財政需要額を基準財政収入額が大きく上回っており、超金持ちの特別な自治体だと改めて理解するとともに、こうした特別な自治体との連携をチャンスと捉えて活かすべきだと感じた。

総じて今回の研修は私たち議員に対して厳しい指摘が多く、勉強の必要性を痛感させられるものであった。しかし、「すべてをわかるはずはなくわかっている人もいない、わからなくてあたりまえだからこそその勉強」という言葉に愛のムチを感じ、「まず自分の得意領域を作りなさい」という指導には勇気づけられた。「近頃は若年世代や女性の議員が増加し、政治の世界も世代交代の潮目にある」との指摘もあったが、私はこの潮目を逃してはいけないと感じている。政治・経済・社会問題が山積し、国際情勢も非常に不安定な現在、ここで政治や社会を変えなくてはという気概を持って、議員活動に取り組みたい。

以上